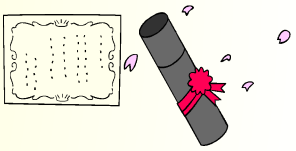
凡事徹底 野間中だより

平成２７年３月４日
第２０６号
野間中学校

卒業おめでとう



伝統ある野間中卒業生として！

平成２６年度前期生徒会　会長　　杉浦　　萌梨乃

３月５日，私たち９６名は卒業の日を迎えました。野間中での３年間という短い間でしたが，たくさんの思い出でいっぱいです。中でも２年生ではじめて経験した後期生徒会副会長から今年度前期の生徒会長までの１年は，友人のありがたさをとても感じました。勉強や部活，そして生徒会の仕事をやらなくてはならないことが重なり，どうしようもなく途方に暮れる私に，友人は励ましてくれたり，相談にのってくれたりととても心強い存在でした。とくに，一緒に生徒会役員をやったメンバーには力をもらいました。おかげで，一つのことしか見ることができなかった私が，まわりを見て，みんなの気持ちを考えたり，意見を聞いたりできるようになりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

前期生徒会役員一同

感謝と言えば，なんと言っても自分の家族に感謝したいです。私の家族はみんなとても明るく，いつも笑いが絶えません。とくに父は私の前ではいつもふざけてばかりいました。思い起こせば，勉強や部活，生徒会，行事などでいらいらしたり，無愛想になっている私の気持ちを和ませようと，仕事の後でも努めて明るく振る舞ってくれたのだと思います。そんな父や母にも感謝の気持ちでいっぱいです。これからもよろしくお願いします。

もちろん，厳しくもいつも励ましてくれた先生方やいつもあいさつで元気づけてくれる地域のみなさんにも感謝をしたいです。

私たちは９年間の義務教育を終え，それぞれの道を歩みます。私の今の気持ちを漢字一文字で表すと，「挑（いどむ）」です。高校に進学し，勉強はもちろん，部活動のハンドボールに全力で挑んでいきたいと思います。この伝統ある野間中の卒業生という誇りを胸にがんばっていきます。

在校生のみなさん，これからの野間中をよろしくお願いします。

卒業おめでとう

３年生職員一同卒業生のみなさんを応援します。

３Ａ担任
家田　友子

３Ｂ担任
都甲　涼子

３Ｃ担任
新海未知子

進路指導主事
坂野　友一

３年副担任
青木　桂子

学年主任
岡井　聖忠

表彰の記録　（順不同，敬称略）

平成２６年度人権を理解する作品コンクール標語の部
　　奨励賞　　千賀　捺月，田村有梨沙，竹田　圭佑，小島　聖矢，池谷宗一郎

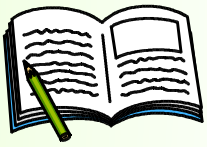
野間中学校特別表彰　様々なボランティアに参加し地域に貢献しました。
　　竹部　薫，伊比井琴音

Ｕ１４センプレ Jr.ユースカップ　優　勝　野間中学校サッカー部Ａ
　　伊藤　慶，竹田　圭佑，野田　和彦，百合草大輔，林　映輝，坂本　啓伍，中川　蓮，中野　創

編集部より　「野間中だより」をご愛読ありがとうございます。「野間中だより」に関するご感想やご意見がございましたら，編集部までお寄せください。

野間中だより編集部　nomajh_dayori@yahoo.co.jp

野間中　今年度の研究・授業実践



「他者とのきずなを大切にし，思いを表現できる生徒の育成」
ー　各教科・領域における言語活動の充実を通して　ー

「わかる授業」「発言しやすい授業」「認め合う授業」を目指した授業実践，今回は井上拓人教諭の第２学年社会科「様々な環境問題」の授業実践を紹介します。

井上拓人教諭の授業実践

教諭　井上　拓人

第２学年社会科「様々な環境問題」

現代社会は，全世界で解決しなければならない数多くの環境問題を抱えています。オゾン層破壊による紫外線，二酸化炭素の排出による地球温暖化，それによって起こる海面上昇や砂漠化・異常気象，そして生態系の破壊など様々な問題が発生しています。このような問題は，産業革命以降急激に進んだ工業化，エネルギー消費問題などが密接に関係しています。

今後の世界は，ますますエネルギー消費量が高まることが考えられます。有限である資源をどのように有効活用するのか，また省資源・省エネルギーをどのように推進するのか，そして，いかに資源・廃棄物を循環して使用する循環型社会を形成していくかが求められます。そこで，生活関連型の環境問題や，地球環境問題を取り上げ，地球に住む人間の一人として，自分の意見をもつとともに，主体的に考え判断できる力を育てていきたいと考えました。

学習計画

日本における公害や地球環境問題の概要をとらえる。特に地球温暖化に注目し，映像資料などを利用して温暖化の原因や歴史的な過程を確認し，温暖化を緩和する手段について考え，意見を交換する。

映像資料を見てワークシートに記入する

言語活動の充実に関わる教科の目標や研究主題に迫る具体的な手立て

言語活動を充実させるために以下の３点の手立てをもって授業を行いました。

①授業の導入段階で，環境問題について知っている例を自由に発表する時間を設ける。環境問題については小学校段階までの学習や日々のニュースで扱われることも多く，生活に身近なところから積極的に発言が期待できる。

②映像資料を用いる際に，映像を見ながら記入できるワークシートを用意し，その後で記入した内容を確認し合う活動を取り入れた。映像を見てからすぐに確認することで自信をもって発言し，温暖化について理解を深めた上でそれらを緩和する方法について自分の考えをもつことができる。

③４～５人のグループで，温暖化を緩和する方法を記入した付箋を，「個人的な取組ー社会全体の取組」と「短期的な取組ー長期的な取組」の軸で作られたマトリックスに落とし込む作業をする。一人一人が自分の考えを伝え積極的に話し合い活動に参加できるだけでなく，意見のまとまりの視覚化をねらう。

考察

授業では，自分の経験や直前に見聞きしたものに関する発問をすることで，たくさんの生徒が自信をもって挙手し，発言をすることができました。また，ワークシートの活用は，授業後に生徒の考えや理解を確認するだけでなく，生徒自身の考えを残しておくことにより自信をもって発言することに役立ちました。

付箋を用いた活動では，小グループの中で自分の書いた意見を共有しやすく，一人一人が積極的に話し合いに参加する姿が見られました。また，付箋をマトリックスに落とし込んでいく作業から，短時間で多くの意見に触れることができ，他人の意見を見た上で自分の意見を表現することにつながりました。反対に，グループによってはその手軽さから，ただマトリックスに付箋を貼るだけの作業になってしまったところもあり，話し合いを深める手立てのきちんとした押さえが必要だと感じました。「なぜそう考えたのか」「それを実行することでどのような変化が生まれるか」などの理由をきちんと説明させたり，全体で話し合ったことをもう一度個に戻し「誰の意見を参考に自分の考えをまとめたか」を明確にさせたりする必要があったと思います。

教務主任　清水　靖

本年度の授業実践の一部を３回にわたり連載掲載しました。「他者とのきずなを大切にし，思いを表現できる生徒の育成ー各教科・領域における言語活動の充実を通してー」というテーマで３年間研究に取り組んできました。言語活動の充実を図りながら各教科や行事の目標にせまる中で，生徒同士だけでなく教師や保護者，地域の方々それぞれがつながっていくこと，認め合うことを目指してきました。”きずなを大切に”まではいかなかったものの，”自分の思い”を表現できる生徒は増えてきたと実感しています。

また，全国学力・学習状況調査からは，文を読み取る力が弱かったり家庭学習の時間が少なかったりということがわかってきました。こうした生徒の現状を踏まえつつ，来年度も，基礎基本を大切にして，生徒たちが「わかる」「できる」を実感できる授業づくり目指し，学ぶ楽しさやわかる喜びを感じられる学校となるよう，研究実践を進めてまいります。